

感覚運動医学講座／皮膚科学分野 附属病院／皮膚科

1. 領域構成教職員・在職期間

教授	長谷川 稔	平成25年6月-
准教授	尾山 徳孝	平成30年4月-
講師	飯野 志郎	平成18年10月-平成18年12月, 平成24年4月- (平成29年8月-現職)
助教	井戸 英樹	平成16年8月-平成17年9月, 平成20年10月-
助教	知野 剛直	平成26年4月-
助教	加藤 卓浩	平成31年4月-

2. 研究概要

研究概要

①) 全身性強皮症の新規治療法の開発

炎症、線維化、血管障害を特徴とする全身性強皮症は、難病に指定されている膠原病の中でも最も治療が難しく、いまだ治療法が確立されていない。このため、強皮症の動物モデルを用いて新規治療や病勢を反映するバイオマーカーの探索が続けてきている。

・ケモカインを標的とした抗体治療 プレオマイシンの連日皮下注射により誘導される強皮症のマウスモデルにおいて、マクロファージなどの遊走に作用するケモカインCX3CL1を阻害するモノクローナル抗体の腹腔内注射による治療効果を検討した。その結果、本抗体治療が、皮膚の炎症、線維化、血管障害のいずれの病態も抑制することが明らかとなった。また、他の皮膚線維化モデルである細胞増殖因子誘導性の強皮症マウスモデルにおいても、本治療は線維化を有意に軽減した。その作用機序についても検討したところ、抗体治療がCX3CL1の受容体であるCX3CR1を発現したマクロファージなどの皮膚浸潤が著明に減少すること、また興味深いことに線維芽細胞からのコラーゲンなどの産生を直接に阻害することがわかった。

本研究成果は、膠原病・リウマチ領域の研究雑誌の中で最も権威のあるArthritis and Rheumatologyに掲載され、巻頭のトピックスにも取り上げられた。また、プレスリリースとして発表し、NHKをはじめとするいくつかの報道機関でもとりあげられた。2019年度福井大学医学系部門の最優秀論文賞にも選出された。その後、別の強皮症モデルである皮膚硬化型性性GVHDモデルでも本抗体治療の有用性を検討した。このモデルでは皮膚だけでなく、肺にも強皮症にみられるような線維化が生じるが、抗CX3CL1抗体治療は皮膚や肺の炎症、線維化を有意に抑制した。抗CX3CL1抗体は現在関節リウマチ患者などの臨床試験が進行しており、我々の3種類の疾患マウスモデルでの有用性を模範として、今後は実際の強皮症患者の臨床試験に発展させたいと考えている。

・間葉転換を抑制する薬剤による新規治療 強皮症では、線維芽細胞だけでなく、血管内皮細胞、上皮細胞、骨髄由来のfibrocyteなどの前駆細胞が筋線維芽細胞などに移行して線維化が促進する可能性が指摘されている。我々は独自の手法により、ヒトの皮膚線維芽細胞がTGF-βの添加により筋線維芽細胞に移行する系を阻害する薬剤を1200種類以上の化合物の中からスクリーニングした。そのひとつである新規化合物LG283の有用性を前述のプレオマイシン誘導性強皮症マウスモデルにおいて検討した。LG283の連日内服により、皮膚硬化は有意に抑制され、特に副作用もみられなかった。炎症には影響がみられなかったことから直接線維化を抑制していると考えられたため、ヒトの培養皮膚線維芽細胞におけるLG283の作用を検討した。LG283は、TGF-βによる線維芽細胞からのコラーゲンやファイブロンクテンの産生を抑制した。また、興味深いことに上皮細胞や血管内皮細胞にTGF-βを添加して間葉系細胞への移行を誘導する検討において、LG283の添加は間葉移行を抑制した。本薬剤が強皮症などの線維化疾患の治療薬として有用な可能性が考えられる。他にも同様のスクリーニング法で抽出した薬剤のひとつが、プレオマイシン誘導性強皮症マウスモデルの炎症や線維化を有意に抑制することを認めた。その機序についても検討を進めている。

・カルバイン阻害剤による新規治療 細胞内Ca²⁺要求性プロテアーゼであるカルバインファミリーは、その生理活性が様々な疾患の病態に関与することが知られている。カルバイン阻害剤は、マウスにおいて肺線維化、皮膚の癬癩形成、血管障害などを軽減する報告があり、強皮症の線維化、血管障害の治療薬として有用な可能性がある。カルバイン阻害剤のひとつであるALLNを培養ヒト皮膚線維芽細胞に添加したところ、TGF-βによるSmad2/3のリン酸化が阻害され、コラーゲンやファイブロンクテンの産生が抑制された。そこで、プレオマイシン誘導性強皮症モデルに腹腔内注射を行うと、皮膚の炎症や線維化が有意に軽減した。その作用機序や他のカルバイン阻害剤の有用性についても検討中である。

②) 表皮に発現する蛋白デルモカインの役割の検討

乾癬やアトピー性皮膚炎などの炎症性皮膚疾患の患者病変部皮膚においては、正常な皮膚に比べて表皮上層にデルモカインの発現が増強していることを報告してきた。また、*in vitro*ではデルモカインが表皮細胞の活性化や増殖を抑制する作用が認められた。しかし、*in vivo*での役割はよくわかっていないため、我々は独自にデルモカインβ/γ欠損マウスとデルモカインα/β/γ欠損マウスを作成した。デルモカインの欠損により、生後10日間程度の限られた時期に魚鱗癬に似た皮膚の角化、かさつきがみられ、デルモカインα/β/γ欠損マウスではデルモカインβ/γ欠損マウスよりも強い表現型を呈し、表皮バリア機能や角化に異常がみられた。また、その機序としてバリア機能に重要なセラミドの減少が認められた。また、表皮におけるマイクロRNAによる検討では、興味深いことに乾癬と似た遺伝子プロファイルが認められた。さらに、デルモカイン欠損マウスにiMxキモドを外用して乾癬を誘導すると、野生型マウスに比べて乾癬が著明に悪化することが明らかとなった。一方で、アトピー性皮膚炎のモデルにおいては、野生型と差がみられなかった。

以上の結果は、皮膚科学研究で最も権威のあるJournal of Investigative Dermatologyにアクセプトされ、プレスリリースしたところ、NHKをはじめとするいくつかの報道機関で報道された。また、本研究は2019年度後期福井大学医学系部門の優秀論文賞にも選出され、筆頭著者の宇都宮 慧は学長表彰 大学院博士課程成績顕著者に選ばれた。その後、乾癬患者において、血清中でデルモカインの濃度を測定した。健康人に比べて乾癬患者ではデルモカインが血中で有意に増加しており、皮疹の重症度と相関した。また、治療によって血清中濃度が低下したことから、デルモカインの血清中濃度は、乾癬の重症度や活動性の指標として有用な可能性が示された。

③) 硬化性萎縮性苔癬の血清診断法・抗原特異的な治療法の確立

硬化性萎縮性苔癬は難治性の炎症性疾患であり、慢性的経過中に発癌を生じることがある。確定診断が主に病理組織学的に行われることや、病勢を把握する血清マーカーが無いことなどの問題点を踏まえ、我々は疾患の病態の解明はもとより、簡便かつ侵襲の少ない血清診断法、ならびに新規の治療法の開発を模索している。

・硬化性萎縮性苔癬患者の約7割に血清中抗ECM1抗体が存在することを我々は始めて報告した。その低い抗体価のために、蛍光抗体間接法などの一般的な手法では検出が困難だったが、より感度と特異度の高い共焦点レーザー顕微鏡を用いることで本抗体の検出率を上げることに成功した。この成果は第48回欧州研究皮膚科会議（ボルドー/フランス）で報告した。得られた知見をもとに、抗ECM1抗体が本疾患のバイオマーカーとして、日常診療での病勢把握や治療効果の判定に応用できるかどうか検討を重ねていく予定である。

・抗ECM1抗体によって発現や機能が障害されたECM1蛋白が、硬化性萎縮性苔癬の病態にどのように関与しているのかを、ECM1ノックダウンヒト線維芽細胞を樹立して網羅的に解析を行った。この細胞では、皮膚の線維化に関与するコラーゲン、ラミニン、フィブロンクテンなどの構造分子や細胞外基質の発現が増加していた。同時に細胞の遊走能や3次元ゲル収縮能が低下しており、ECM1自体が他の構造蛋白や細胞外基質の発現を調整する代償機能をもつこと、これらの分子群を繋ぎとめる皮膚微小構造の足場となっている可能性が示された。本研究に携わった宇都宮 夏子は、筆頭著者としてこの成果をまとめ上げ、Journal of Dermatological Science誌へのアクセプトならびに日本研究皮膚科学会主催の第11回若手育成セミナー講演に唯一の若手女性研究者代表として選出された。

④) 肥満細胞症のc-kit遺伝子変異の集約的解析

肥満細胞症は小児〜成人までの幅広い年齢層に様々な形態で生じる良性的腫瘍性疾患であるが、まれに白化して悪性の転換を取ることが知られている。本疾患の予後や治療法を選択する上で、我々は肥満細胞の異常な増殖に関わるc-kit遺伝子の変異、ならびにその変異の部位が関与している可能性について報告してきた。この遺伝子変異の検索を行っている施設は本邦では殆どないことから、現在当科が全国規模を見据えた、肥満細胞症におけるc-kit遺伝子解析のプラットフォームとしての役割を担えるような体制を整えている。

キーワード

強皮症、乾癬、アトピー性皮膚炎、硬化性苔癬、新規治療

業績年の進捗状況

いずれの研究も順調に進んでおり、皮膚悪性黒色腫の新規治療の探索や皮膚悪性腫瘍の臨床研究など、新たなプロジェクトも立ち上げている。一連の研究成果が評価され、長谷川 稔は2019年度福井大学学長奨励賞（研究）を受賞した。

特色等

当教室では、膠原病のひとつで炎症、線維化、血管障害を特徴とする全身性強皮症を専門として力を入れて診療している。しかしながら、本疾患は膠原病の中でも最も治療反応性が悪く、いまだ治療法が確立されていない。このため、新規治療を開発すべく、以下のような3つのアプローチを行っている。1) マクロファージなどの組織への細胞浸潤を誘導するケモカインのひとつであるCX3CL1を抑制する抗体治療、2) 1200種類以上からスクリーニングした間葉移行を抑制する化合物による治療、3) カルバイン阻害薬による治療。強皮症のマウスモデルにこれらの薬剤を投与したところ、線維化などを抑制する効果が確認され、問題となる副作用はみられていない。将来的には、これらの薬剤を実際の強皮症患者や他の炎症性疾患や線維化疾患に投与する臨床試験へと発展させたい。また、薬剤の作用機序を検討する中で、強皮症の病態を明らかにする手がかりが得られるものと信じている。

もうひとつの研究の大きな柱は、表皮に発現する蛋白デルモカインの役割の解明である。この蛋白は表皮の顆粒層に発現し、角化やバリア機能の他、炎症の抑制などに作用する可能性がこれまでの検討からわかってきている。しかし、その役割をより明らかにするために我々はデルモカインの欠損マウスを作成して、その表現型を解析している。このマウスでは生後10日間ほど、魚鱗癬のようなかさかさの皮膚を呈し、魚鱗癬のモデルとして有用な可能性がある。また、そのような角化異常がデルモカインの機能障害でなぜ生じるのか、他の角化に関わる分子との関連も含めて解析を進めている。このように、本研究は皮膚の角化やバリア機能の解明に結びつく点で皮膚科学で重要な意味を持つ。そして、独自に作成した遺伝子欠損マウスを用いた解析であり、非常に独創性の高い研究といえる。

このマウスでは、その後の成長とともに皮膚の性状は異常がみられなくなってくる。しかしながら、このマウスに代表的な皮膚炎症性疾患である乾癬モデルを誘導すると野生型マウスに比べて悪化がみられる。このように、デルモカインは角化やバリア機能異常のみならず、免疫担当細胞にも作用している種の炎症の抑制に作用しているものと考えられ、皮膚炎症性疾患におけるバリア機能と免疫異常とのクロストークの解明の一助になると思われる。当教室はデルモカインの研究では世界のトップを走っており、デルモカインの発現を促進するような治療が、将来的に実際の乾癬患者に有用となる可能性を秘めており、臨床的な意義も大きい。また、最新の知見として、血清中のデルモカインの濃度が乾癬の重症度や活動性のバイオマーカーとなる可能性を示している。

本学の理念との関係

当教室では世界的水準での免疫学的な研究を推進しており、これらの研究成果は皮膚科学やリウマチ学の国際的なトップジャーナルに掲載されることを目標としている。また、これらの研究を通して、地域、国、国際社会に貢献できる研究者の育成を行っている。研究の大半は、市販されていない治療薬や遺伝子欠損マウスを用いた独創性の高いものであり、難治性の皮膚疾患やリウマチ疾患における最新治療の開発に結びつく最先端の医学研究である。これらのことから、当教室での研究内容は本学の理念によく合致したものであり、その意義は大きいと考える。

3. 研究実績

区分		総数	インパクトファクター（うち原著のみ）
		2019年分	2019年分
和文原著論文		6	—
	ファーストオーサー	5	19.133 (19.133)
英文論文	コレスポンディングオーサー	4	19.133 (19.133)
	その他	2	6.662 (6.662)
	合計	7	25.795 (25.795)

(A) 著書・論文等**(1) 英文：著書等****a. 著書****b. 著書（分担執筆）****c. 編集・編集・監修****(2) 英文：論文等****a. 原著論文（審査有）**

1933001 Miyanaga M, Oyama N, Sakai Y, Imamura Y, Hasegawa M.: Successful treatment of acquired reactive perforating collagenosis with topical benzoyl peroxide: A possible therapeutic action underlying structural and metabolic turnover, *J Dermatol.*, 47(1), e12-e14, 202001, DOI: 10.1111/1346-8138.15102 (症例報告), #3.377

1933002 Kasamatsu H, Koizumi H, Honda M, Yamaguchi Y, Chino T, Oyama N, Hasegawa M.: A rare case of cutaneous vasculitis with diagnostic difficulty in coexistence of serum anti-PR3 antibody and vivo IgA deposits in the skin., *J Cutan Immunol Allergy*, 3(2), 202003, DOI: 10.1002/cia2.12100. (症例報告)

1933003 Honda M, Oyama N, Uesugi S, Katoh T, Hasegawa M.: Successful treatment with oral minocycline in a case with a long-standing idiopathic atrophoderma of Pasini and Pierini: Histopathological comparison with the contralateral normal skin., *J Dermatol.*, 46(12), e472-e474, 201912, DOI: 10.1111/1346-8138.15064. (症例報告), #3.377

1933004 Enomoto S, Shigemitsu H, Kitazaki Y, Ikawa M, Yamamura O, Hamano T, Tai K, Iwasaki H, Koizumi H, Hasegawa M, Takeda K, Nakamoto Y.: Cladophialophora bantiana infection mimicking neuromyelitis optica., *J Neurol Sci.*, 399, 169-171, 201904, DOI: 10.1016/j.jns.2018.12.013. (症例報告), #2.651

1933005 Yamaguchi Y, Oyama N, Koizumi H, Chino T, Hasegawa M.: Successful treatment of recalcitrant subcorneal pustular dermatosis with oral nicotinamide., *J Dermatol.*, 46(11), e438-e440, 201911, DOI: 10.1111/1346-8138.14980. (症例報告), #3.377

1933006 Yokoyama N, Kawasaki A, Matsushita T, Furukawa H, Kondo Y, Hirano F, Sada KE, Matsumoto I, Kusaoi M, Amano H, Nagaoka S, Setoguchi K, Nagai T, Shimada K, Sugii S, Hashimoto A, Matsui T, Okamoto A, Chiba N, Suematsu E, Ohno S, Katayama M, Migita K, Kono H, Hasegawa M, Kobayashi S, Yamada H, Nagasaka K, Sugihara T, Yamagata K, Ozaki S, Tamura N, Takasaki Y, Hashimoto H, Makino H, Arimura Y, Harigai M, Sato S, Sumida T, Tohma S, Takehara K, Tsuchiya N.: Association of NCF1 polymorphism with systemic lupus erythematosus and systemic sclerosis but not with ANCA-associated vasculitis in a Japanese population., *Sci Rep.*, 9(1), 16366, 201911, DOI: 10.1038/s41598-019-52920-0., #4.011

1933007 Luong VH, Utsunomiya A, Chino T, Doanh LH, Matsushita T, Obara T, Kuboi Y, Ishii N, Machinaga A, Ogasawara H, Ikeda W, Kawano T, Imai T, Oyama N, Hasegawa M.: Inhibition of the Progression of Skin Inflammation, Fibrosis, and Vascular Injury by Blockade of the CX(3) CL1/CX(3) CR1 Pathway in Experimental Mouse Models of Systemic Sclerosis., *Arthritis Rheumatol.*, 71(11), 1923-1934, 201911, DOI: 10.1002/art.41009., #9.002

b. 原著論文（審査無）**c. 原著論文（総説）****d. その他研究等実績（報告書を含む）****e. 国際会議論文**

1933008 Chino T, Oyama N, Utsunomiya A, Utsunomiya N, Hasegawa M, Kubo A.: A case of congenital generalized lipodystrophy with dyschromia caused by a heterozygous recurrent mutation of LMNA gene., The 44th Annual Meeting of the Japanese Society for Investigative Dermatology, 20191108

1933009 Utsunomiya A, Chino T, Utsunomiya N, VH Luong, Higashi K, Sato K, Sugai M, Sugawara K, Tsuruta D, Hasegawa M.: Dual functions of dermokine in regulating skin barrier and innate immunity., The 44th Annual Meeting of the Japanese Society for Investigative Dermatology, 20191108

1933010 Matsushita T, Kobayashi T, Kano M, Hamaguchi Y, Hasegawa M, Fujimoto M, Takehara K.: Role of effector and regulatory B cells in patients with systemic sclerosis IL-6 producing effector B cells associated skin fibrosis., *J Invest Dermatol.*, 139(9S), S222-S222, 20190918

1933011 Utsunomiya N, Oyama N, Chino T, Utsunomiya A, Hasegawa M.: Impaired function of ECM1 underlies the pathogenic disorganization of vascular and basement membrane molecules in lichen sclerosus., *J Invest Dermatol.*, 139(9S), S217-S217, 20190918

1933012 Elman SA, Joyce C, Braudis K, Chong BF, Fernandez AP, Furukawa F, Hasegawa M, Kim HJ, Li SJ, Lian CG, Szepletowski JC, Werth VP, Merola JF.: Validation of Classification Criteria for Discoid Lupus Erythematosus (DLE): An Update, 24th Congress of Dermatology Meeting, 20190610

1933013 Hasegawa M, Luong VH, Utsunomiya A, Chino T, Oyama N, Matsushita T, Obara T, Kuboi Y, Ishii N, Machinaga A, Ogasawara H, Ikeda W, Imai T.: Anti-mouse CX3CL1 monoclonal antibody therapy in mouse models of systemic sclerosis., *J Invest Dermatol.*, 20190508

1933014 Utsunomiya A, Chino T, Utsunomiya N, VH Luong, Sugai M, Higashi K, Sugawara K, Tsuruta D, Oyama N, Hasegawa M.: Homeostatic functions dermokine in skin barrier and innate immunity., *J Invest Dermatol.*, 139(9S), S274-S274, 20190918

(3) 和文：著書等

a. 著書

b. 著書(分担執筆)

1933015

長谷川 稔：第14章 血管・リンパ管の疾患および紫斑 II 紫斑：岩月 啓氏、照井 正、石河 晃：標準皮膚科学，医学書院，221-226，20200201，978-4-260-03888-1

1933016

長谷川 稔：第14章 血管・リンパ管の疾患および紫斑 I 血管・リンパ管の疾患：岩月 啓氏、照井 正、石河 晃：標準皮膚科学，医学書院，201-221，20200201，978-4-260-03888-1

1933017

宇都宮 慧、尾山徳孝、小泉 遼、長谷川 稔：皮膚エリテマトーデスに対してヒドロキシクロロキンによる治療は有用か？：全身性エリテマトーデス診療ガイドライン2019，南山堂，101-105，20191101

1933018

小泉 遼、尾山徳孝、宇都宮 慧、長谷川 稔：皮疹の活動性評価にCLASIは有用か？：全身性エリテマトーデス診療ガイドライン2019，南山堂，84-87，20191101，978-4-525-23471-3

1933019

長谷川 稔：指定難病・身体障害者認定：尹 浩信、竹原和彦、佐藤伸一、桑名正隆：発症から検査、治療、サポート体制まで 強皮症のすべてがわかる本，保健同人社，150-151，20190610，978-4-8327-0697-2

1933020

長谷川 稔：強皮症の用語解説 高額かつ長期：発症から検査、治療、サポート体制まで 強皮症のすべてがわかる本，保健同人社，141，20190610，978-4-8327-0697-2

1933021

長谷川 稔：福祉その他：尹 浩信、竹原和彦、佐藤伸一、桑名正隆：発症から検査、治療、サポート体制まで 強皮症のすべてがわかる本，保健同人社，126-130，20190610，978-4-8327-0697-2

c. 編集・編集・監修

(4) 和文：論文等

a. 原著論文(審査有)

1933022

宮永 美紀、尾山 徳孝、長谷川 稔：高血圧治療薬の副作用で生じた乾癬の1例，Visual Dermatology，19(2)，176-177，202002

1933023

宇都宮 夏子、尾山 徳孝、長谷川 稔：ミドリムシ製剤服用後に発症した多形紅斑の1例 -薬剤リンパ球刺激試験(DLST)の偽陽性について-，Visual Dermatology，19(2)，186-188，202002

1933024

内田 沙織、尾山 徳孝、宮永 美紀、佐野 和生、河原 謙一、飯野 志郎、長谷川 稔：金属パッチテストで亜鉛に陽性所見を呈し、亜鉛含有歯科金属の除去で改善した肉芽腫性口唇炎の女児例，日本小児皮膚科学会雑誌，39(1)，43-48，202001

1933025

本多 美貴、小泉 遼、井戸 英樹、尾山 徳孝、長谷川 稔：全身性エリテマトーデスに対するステロイド内服中、摂食制限を契機に生じた連環状靴襠疹の1例，皮膚科の臨床，62(1)，13-16，202001

1933026

馬場 夏希、八代 浩、長谷川義典、長谷川 稔：S-1とドセタキセルの併用療法が奏効した進行期乳房外Paget病の1例，皮膚科の臨床，61(10)，1499-1503，201909

1933027

本多 美貴、尾山 徳孝、樋口 翔平、今村 好章、石黒和守、長谷川 稔：長期にわたり Steatocystoma Multiplex と Eruptive Vellus Hair Cyst が異なる部位に共存した1例，皮膚科の臨床，62(2)，201-205，202002

b. 原著論文(審査無)

c. 総説

1933028

尾山 徳孝：コレステロール塞栓症，診断と治療増刊号「内科医のための皮膚疾患アトラス」，107suppl，202-203，2019

1933029

尾山 徳孝：免疫関連副作用としての自己免疫疾患，リウマチ科，62(5)，445-450，201911

1933030

長谷川 稔：疾患からみる膠原病のいま 膠原病へのアプローチ②皮膚筋炎，皮膚科の臨床，61(12)，1745-1751，201912

1933031

長谷川 稔：抗リン脂質抗体症候群の皮膚症状，Modern Physician，39(10)，925-928，201910

1933032

長谷川 稔：全身性疾患関連血管炎 全身性疾患関連血管炎を基礎から固める，Monthly Book Derma.，287，64-69，201909

1933033

小泉 遼、長谷川 稔：後爪郭の変化と膠原病，Monthly Book Derma.，281，99-107，201904

d. その他研究等実績(報告書を含む)

1933034

長谷川 稔、宇都宮 慧、知野剛直、尾山徳孝：アトピー性皮膚炎や魚鱗癬における皮膚バリア機能の異常に関わるデルモカインの役割と分子標的治療への応用に関する研究，ライフサイエンスイノベーションセンター2018年度活動報告書「平成30年度重点プロジェクト研究および学内共同研究棟研究費助成」，28-29，202002

1933035

石川 治、浅野善英、神人正寿、竹原和彦、長谷川 稔、藤本 学、牧野貴充、山本俊幸、佐藤伸一、茂木精一郎、関口明子、尹 浩信：硬化性萎縮性苔癬のアンケート調査結果について，厚生労働科学研究費補助金 難治性疾患等政策研究事業 強皮症・皮膚線維化疾患の診断基準・重症度分類・診療ガイドラインに関する研究 平成29～令和元年度 総合研究報告書，155-168，202003

1933036

山本俊幸、浅野善英、石川 治、神人正寿、竹原和彦、長谷川 稔、藤本 学、牧野貴充、佐藤伸一、尹 浩信：好酸球性筋膜炎モデルマウスの作成，厚生労働科学研究費補助金 難治性疾患等政策研究事業 強皮症・皮膚線維化疾患の診断基準・重症度分類・診療ガイドラインに関する研究 平成29～令和元年度 総合研究報告書，152-154，202003

1933037

神人正寿、浅野善英、石川 治、竹原和彦、長谷川 稔、藤本 学、牧野貴充、山本俊幸、佐藤伸一、尹 浩信：好酸球性筋膜炎の診療ガイドラインの妥当性の検証，厚生労働科学研究費補助金 難治性疾患等政策研究事業 強皮症・皮膚線維化疾患の診断基準・重症度分類・診療ガイドラインに関する研究 平成29～令和元年度 総合研究報告書，132-151，202003

1933038

浅野善英、石川 治、神人正寿、竹原和彦、長谷川 稔、藤本 学、牧野貴充、山本俊幸、佐藤伸一、尹 浩信：「限局性強皮症 診断基準・重症度分類・診療ガイドライン」に関する全国アンケート調査，厚生労働科学研究費補助金 難治性疾患等政策研究事業 強皮症・皮膚線維化疾患の診断基準・重症度分類・診療ガイドラインに関する研究 平成29～令和元年度 総合研究報告書，117-131，202003

業績一覧

- 1933039** 藤本 学、浅野善英、石川 治、神人正寿、竹原和彦、長谷川 稔、牧野貴充、山本俊幸、沖山奈緒子、佐藤伸一、尹 浩信：成人限局性強皮症の簡易的日常生活動作障害スコアリングシステムの有用性の検討とそれに基づいた重症度基準案、厚生労働科学研究費補助金 難治性疾患等政策研究事業 強皮症・皮膚線維化疾患の診断基準・重症度分類・診療ガイドラインに関する研究 平成29～令和元年度 総合研究報告書、109-116、202003
- 1933040** 長谷川 稔、浅野善英、石川 治、川口鎮司、桑名正隆、後藤大輔、神人正寿、高橋裕樹、竹原和彦、波多野将、藤本 学、牧野貴充、田中住明、佐藤伸一、宇都宮慧、尾山徳孝、遠藤平仁、小川文秀、尹 浩信：本邦における全身性強皮症早期例の臨床症状と検査データの推移-多施設前向き研究-、厚生労働科学研究費補助金 難治性疾患等政策研究事業 強皮症・皮膚線維化疾患の診断基準・重症度分類・診療ガイドラインに関する研究 平成29～令和元年度 総合研究報告書、83-91、202003
- 1933041** 尹 浩信、浅野善英、石川 治、川口鎮司、桑名正隆、後藤大輔、神人正寿、竹原和彦、長谷川 稔、波多野将、藤本 学、牧野貴充、山本俊幸、妻井直樹、佐藤伸一：強皮症・皮膚線維化疾患の診断基準・重症度分類・診療ガイドラインに関する研究、厚生労働科学研究費補助金 難治性疾患等政策研究事業 強皮症・皮膚線維化疾患の診断基準・重症度分類・診療ガイドラインに関する研究 平成29～令和元年度 総合研究報告書、3-35、202003
- 1933042** 石川 治、浅野善英、神人正寿、竹原和彦、長谷川 稔、藤本 学、牧野貴充、山本俊幸、佐藤伸一、茂木精一郎、関口明子、尹 浩信：硬化性萎縮性苔癬のアンケート調査結果について、厚生労働科学研究費補助金 難治性疾患等政策研究事業 強皮症・皮膚線維化疾患の診断基準・重症度分類・診療ガイドラインに関する研究 令和元年度 総括・分担研究報告書、112-116、202003
- 1933043** 神人正寿、浅野善英、石川 治、竹原和彦、長谷川 稔、藤本 学、牧野貴充、山本俊幸、佐藤伸一、尹 浩信：好酸球性筋膜炎の診療ガイドラインの妥当性の検証、厚生労働科学研究費補助金 難治性疾患等政策研究事業 強皮症・皮膚線維化疾患の診断基準・重症度分類・診療ガイドラインに関する研究 令和元年度 総括・分担研究報告書、95-111、2020003
- 1933044** 浅野善英、石川 治、神人正寿、竹原和彦、長谷川 稔、藤本 学、牧野貴充、山本俊幸、佐藤伸一、尹 浩信：「限局性強皮症 診断基準・重症度分類・診療ガイドライン」に関する全国アンケート調査、厚生労働科学研究費補助金 難治性疾患等政策研究事業 強皮症・皮膚線維化疾患の診断基準・重症度分類・診療ガイドラインに関する研究 令和元年度 総括・分担研究報告書、86-94、202003
- 1933045** 妻井直樹、浅野善英、石川 治、川口鎮司、桑名正隆、後藤大輔、神人正寿、竹原和彦、長谷川 稔、波多野将、藤本 学、牧野貴充、山本俊幸、佐藤伸一、濱口儒人、松下貴史、尹 浩信：全身性強皮症の手指に対するリハビリテーションの短期、長期効果の検証、厚生労働科学研究費補助金 難治性疾患等政策研究事業 強皮症・皮膚線維化疾患の診断基準・重症度分類・診療ガイドラインに関する研究 令和元年度 総括・分担研究報告書、80-85、202003
- 1933046** 長谷川 稔、浅野善英、石川 治、川口鎮司、桑名正隆、後藤大輔、神人正寿、高橋裕樹、竹原和彦、波多野将、藤本 学、牧野貴充、山本俊幸、田中住明、佐藤伸一、宇都宮慧、尾山徳孝、遠藤平仁、小川文秀、尹 浩信：本邦における全身性強皮症早期例の臨床症状と検査データの推移-多施設前向き研究-、厚生労働科学研究費補助金 難治性疾患等政策研究事業 強皮症・皮膚線維化疾患の診断基準・重症度分類・診療ガイドラインに関する研究 令和元年度 総括・分担研究報告書、72-79、202003
- 1933047** 波多野将、浅野善英、石川 治、川口鎮司、桑名正隆、後藤大輔、神人正寿、竹原和彦、長谷川 稔、藤本 学、牧野貴充、山本俊幸、佐藤伸一、ムンフトールプレズレン、牧 尚孝、小室一成、尹 浩信：全身性強皮症患者における心臓病変重症度分類の有用性の検討、厚生労働科学研究費補助金 難治性疾患等政策研究事業 強皮症・皮膚線維化疾患の診断基準・重症度分類・診療ガイドラインに関する研究 令和元年度 総括・分担研究報告書、65-71、202003
- 1933048** 牧野貴充、浅野善英、石川 治、川口鎮司、桑名正隆、後藤大輔、神人正寿、竹原和彦、長谷川 稔、波多野将、藤本 学、山本俊幸、佐藤伸一、牧野雄成、澤村創一郎、宮村智裕、石松翔子、尹 浩信：全身性強皮症に関する臓器別重症度調査の集計、厚生労働科学研究費補助金 難治性疾患等政策研究事業 強皮症・皮膚線維化疾患の診断基準・重症度分類・診療ガイドラインに関する研究 令和元年度 総括・分担研究報告書、53-64、202003
- 1933049** 当科における、抗ARS抗体陽性の全身性強皮症の検討、厚生労働科学研究費補助金 難治性疾患等政策研究事業 強皮症・皮膚線維化疾患の診断基準・重症度分類・診療ガイドラインに関する研究 令和元年度 総括・分担研究報告書、50-52、202003
- 1933050** 藤本 学、浅野善英、石川 治、川口鎮司、桑名正隆、後藤大輔、神人正寿、竹原和彦、長谷川 稔、波多野将、牧野貴充、山本俊幸、沖山奈緒子、佐藤伸一、壽 順久、外村香子、尹 浩信：抗アミノアシルtRNA合成酵素抗体陽性患者における全身性強皮症の診断に関する検討、厚生労働科学研究費補助金 難治性疾患等政策研究事業 強皮症・皮膚線維化疾患の診断基準・重症度分類・診療ガイドラインに関する研究 令和元年度 総括・分担研究報告書、46-49、202003
- 1933051** 竹原和彦、浅野善英、石川 治、川口鎮司、桑名正隆、後藤大輔、神人正寿、長谷川 稔、波多野将、藤本 学、牧野貴充、山本俊幸、佐藤伸一、濱口儒人、尹 浩信：厚生労働省強皮症研究班が作成した全身性強皮症の診断基準を満たさない症例についての検討、厚生労働科学研究費補助金 難治性疾患等政策研究事業 強皮症・皮膚線維化疾患の診断基準・重症度分類・診療ガイドラインに関する研究 令和元年度 総括・分担研究報告書、38-45、202003
- 1933052** 後藤大輔、浅野善英、石川 治、川口鎮司、桑名正隆、神人正寿、竹原和彦、長谷川 稔、波多野将、藤本 学、牧野貴充、山本俊幸、佐藤伸一、尹 浩信：全身性強皮症とその他の膠原病疾患における抗ARS抗体陽性例の検討、厚生労働科学研究費補助金 難治性疾患等政策研究事業 強皮症・皮膚線維化疾患の診断基準・重症度分類・診療ガイドラインに関する研究 令和元年度 総括・分担研究報告書、33-37、202003
- 1933053** 桑名正隆、浅野善英、石川 治、川口鎮司、後藤大輔、神人正寿、竹原和彦、長谷川 稔、波多野将、藤本 学、牧野貴充、山本俊幸、佐藤伸一、白木悠一郎、尹 浩信：全身性強皮症における抗アミノアシルtRNA合成酵素抗体陽性例の解析、厚生労働科学研究費補助金 難治性疾患等政策研究事業 強皮症・皮膚線維化疾患の診断基準・重症度分類・診療ガイドラインに関する研究 令和元年度 総括・分担研究報告書、27-32、202003
- 1933054** 川口鎮司、浅野善英、石川 治、桑名正隆、後藤大輔、神人正寿、竹原和彦、長谷川 稔、波多野将、藤本 学、牧野貴充、山本俊幸、佐藤伸一、高木香恵、榎本明子、樋口智明、尹 浩信：2016年厚生労働省研究班作成の全身性強皮症診断基準の感度と特異度の評価、厚生労働科学研究費補助金 難治性疾患等政策研究事業 強皮症・皮膚線維化疾患の診断基準・重症度分類・診療ガイドラインに関する研究 令和元年度 総括・分担研究報告書、19-26、202003
- 1933055** 尹 浩信、浅野善英、石川 治、川口鎮司、桑名正隆、後藤大輔、神人正寿、竹原和彦、長谷川 稔、波多野将、藤本 学、牧野貴充、山本俊幸、妻井直樹、佐藤伸一：強皮症・皮膚線維化疾患の診断基準・重症度分類・診療ガイドラインに関する研究、厚生労働科学研究費補助金 難治性疾患等政策研究事業 強皮症・皮膚線維化疾患の診断基準・重症度分類・診療ガイドラインに関する研究 令和元年度 総括・分担研究報告書、3-15、202003
- 1933056** 日本皮膚科学会血管炎・血管障害診療ガイドライン改訂委員会、川上 民裕、有村 義宏、池田 高治、石黒 直子、石津 明洋、伊藤 吹夕、猪原 登志子、沖山 奈緒子、小野 さち子、鈴木 和男、菅原 弘二、清島 真理子、小寺 雅也、田中 麻衣子、長谷川 稔、古川 福実、山口 由衣、吉崎 歩：皮膚動脈炎（皮膚型結節性多発動脈炎）の全国アンケート調査結果、日本皮膚科学会誌、129(9)、1901-1907、201908

e. 国際会議論文

(B) 学会発表等

(1) 国際学会

a. 招待・特別講演等

b. シンポジスト・パネリスト等

c. 一般講演 (口演)

- 1933057** Utsunomiya A, Chino T, Utsunomiya N, VH Luong, Sugai M, Higashi K, Sugawara K, Tsuruta D, Oyama N, Hasegawa M.: Homeostatic functions dermokine in skin barrier and innate immunity., 49th Annual ESDR Meeting, Bordeaux (France), 20190918
- 1933058** Matsushita T, Kobayashi T, Kano M, Hamaguchi Y, Hasegawa M, Fujimoto M, Takehara K.: Role of effector and regulatory B cells in patients with systemic sclerosis IL-6 producing effector B cells associated skin fibrosis., 49th Annual ESDR Meeting, Bordeaux (France), 20190918
- 1933059** Chino T, Oyama N, Utsunomiya A, Utsunomiya N, Hasegawa M, Kubo A.: A case of congenital generalized lipodystrophy with dyschromia caused by a heterozygous recurrent mutation of LMNA gene., The 44th Annual Meeting of the Japanese Society for Investigative Dermatology, Aomori city, 20191108
- 1933060** Utsunomiya A, Chino T, Utsunomiya N, VH Luong, Higashi K, Sato K, Sugai M, Sugawara K, Tsuruta D, Hasegawa M.: Dual functions of dermokine in regulating skin barrier and innate immunity., The 44th Annual Meeting of the Japanese Society for Investigative Dermatology, Aomori city, 20191108, 201
- 1933061** Utsunomiya N, Oyama N, Chino T, Utsunomiya A, Hasegawa M.: Impaired function of ECM1 underlies the pathogenic disorganization of vascular and basement membrane molecules in lichen sclerosus., 49th Annual ESDR Meeting, Bordeaux (France), 20190918
- 1933062** Utsunomiya A, Chino T, Utsunomiya N, VH Luong, Sugai M, Higashi K, Sugawara K, Tsuruta D, Oyama N, Hasegawa M.: Homeostatic functions dermokine in skin barrier and innate immunity., 49th Annual ESDR Meeting, Bordeaux (France), 20190918
- 1933063** Elman SA, Joyce C, Braudis K, Chong BF, Fernandez AP, Furukawa F, Hasegawa M, Kim HJ, Li SJ, Lian CG, Szepietowski JC, Werth VP, Merola JF.: Validation of Classification Criteria for Discoid Lupus Erythematosus (DLE) : An Update, 24th Congress of Dermatology Meeting, Milan (Italy), 20190610
- 1933064** Hasegawa M, Luong VH, Utsunomiya A, Chino T, Oyama N, Matsushita T, Obara T, Kuboi Y, Ishii N, Machinaga A, Ogasawara H, Ikeda W, Imai T.: Anti-mouse CX3CL1 monoclonal antibody therapy in mouse models of systemic sclerosis., The 77th Society for Investigative Dermatology 2019 Annual Meeting, Chicago (USA), 20190508, J Invest Dermatol, B25

e. 一般講演

f. その他

(2) 国内学会 (全国レベル)

a. 招待・特別講演等

- 1933065** 長谷川 稔: エリテマトーデスの診断と治療戦略, 第49回日本皮膚免疫アレルギー学会総会学術大会, 横浜市, 20191129
- 1933066** 長谷川 稔: 膠原病の手の皮疹, 第35回日本臨床皮膚科医会総会・臨床学術大会, 松山市, 20190420

b. シンポジスト・パネリスト等

c. 一般講演 (口演)

- 1933067** 山本俊幸, 新井 達, 川上民裕, 長谷川 稔, 藤本徳毅, 山口由衣: 膠原病・血管炎～最近のトピックス～, 第49回日本皮膚科免疫アレルギー学会総会学術大会, 免疫アレルギー最近の進歩, 横浜市, 20191129, 抄録集, 113
- 1933068** 宇都宮 慧, 福井玲芽, 尾山徳孝, 長谷川 稔: 当科におけるヒドキシクロロキンで加療したエリテマトーデス31症例のまとめ, 第49回日本皮膚科免疫アレルギー学会総会学術大会, 膠原病, 横浜市, 20191129, 抄録集, 189
- 1933069** 笠松宏至, 小泉 遼, 本多美貴, 山口由佳, 尾山徳孝, 長谷川 稔: IgA血管炎との鑑別に苦慮した多発血管炎性肉芽腫症の1例, 第49回日本皮膚科免疫アレルギー学会総会学術大会, 血管炎, 横浜市, 20191129, 抄録集, 181
- 1933070** 長谷川 巧, 関根史織, 北風光平, 加藤卓浩, 馬場夏希, 飯野志郎, 尾山徳孝, 長谷川 稔: 急速に増大した上口唇部有棘細胞癌の1例, 第34回日本皮膚科外科学会総会・学術大会, あなたならどうする, 宇都宮市, 20190928, 抄録, 225
- 1933071** 宇都宮夏子, 尾山徳孝, 山口由佳, 長谷川 稔: 関節症状を合併した治療抵抗性の稽留性肢端皮膚炎にアダリムマブが奏効した1例, 第34回乾癬学会学術大会, 治療TNF抗体製剤, 京都市, 20190830, 抄録, 202
- 1933072** 尾山徳孝, 小泉 遼, 福井玲芽, 安富素子, 大嶋勇成, 長谷川 稔: ヒドロキシクロロキン硫酸塩が著効した lupus erythematosus tumidus の小児例, 第41回光医学・光生物学会, 光と臨床医学2, 富山市, 20190719, 74
- 1933073** 上杉沙織, 尾山徳孝, 小泉 遼, 平松活志, 中本安成, 長谷川 稔: TNF- α 阻害薬投与中に生じたBazin 硬結性紅斑の1例, 第118回日本皮膚科学会総会, 一般演題12, 名古屋市, 20190606, 1178
- 1933074** 飯野志郎, 加藤卓浩, 北風光平, 馬場夏希, 尾山徳孝, 長谷川 稔, 樋口翔平, 今村好章: in situ 病変を伴った脂腺癌の1例, 第35回日本皮膚悪性腫瘍学会学術大会, 附属器腫瘍1, 神戸市, 20190524, 158
- 1933075** 長谷川 巧, 八代 浩, 長谷川義典: 頭頂部に生じたProliferating trichilemmal cyst の1例, 第35回日本皮膚悪性腫瘍学会学術大会, 附属器腫瘍1, 神戸市, 20190524, 抄録集, 157
- 1933076** 加藤卓浩, 飯野志郎, 尾山徳孝, 長谷川 稔, 廣野靖夫, 根本朋幸, 中本安成, 今村好章: 食道悪性黒色腫のニボルマブ投与中に生じた肝転移に肝動脈科学塞栓療法とラジオ波焼灼療法が奏効した1例, 第35回日本皮膚悪性腫瘍学会学術大会, メラノーマ4, 神戸市, 20190524, 抄録集, 117
- 1933077** Iino S, Baba N, Kitakaze K, Uesugi S, Oyama N, Yamaguchi A, Higuchi S, Imamura Y, Hasegawa M.: An yellow nodule on the forehead, 第35回日本皮膚病理組織学会, International Sessions, 神戸市, 20190420
- 1933078** 宇都宮 慧, 長谷川 稔, 浅野善英, 石川 治, 遠藤平仁, 川口鎮司, 桑名正隆, 後藤大輔, 佐藤伸一, 高橋裕樹, 竹原和彦, 田中住明, 藤本 学, 尹 浩信: 本邦における全身性強皮症早期重症例の臨床症状の多施設前向き研究, 第63回日本リウマチ学会総会・学術集会, 強皮症1, 京都市, 20190415, 抄録集, 530

d. 一般講演 (ポスター)

- 1933079 宇都宮 慧、福井玲子、尾山徳孝、長谷川 稔: 当科におけるヒドキシクロロキンで加療したエリテマトーデス31症例のまとめ, 第49回日本皮膚科免疫アレルギー学会総会学術大会, 横浜市, 20191129
- 1933080 笠松宏至、小泉 遼、本多美貴、山口由佳、尾山徳孝、長谷川 稔: IgA血管炎との鑑別に苦慮した多発血管炎性肉芽腫症の1例, 第49回日本皮膚科免疫アレルギー学会総会学術大会, 横浜市, 20191129, 抄録集, 181
- 1933081 宇都宮 慧、知野剛直、宇都宮夏子、東 清史、齊藤幸一、尾山徳孝、長谷川 稔: 皮膚炎症性疾患におけるdermokineの発現についての検討, 第47回日本臨床免疫学会総会, 札幌市, 20191017, 抄録集, 108
- 1933082 福井玲子、尾山徳孝、長谷川 稔: 精神運動発達遅滞と耳介軟骨形成異常を伴ったhypomelanosis of Ito の1例, 第118回日本皮膚科学会総会, 母斑と母斑症, 名古屋市, 20190606, 抄録, 1208
- 1933083 加藤卓浩、飯野志郎、馬場夏希、山口由佳、宮永美紀、知野剛直、尾山徳孝、長谷川 稔、森川美羽、石塚 全: 抗PD-1抗体投与中に乾癬様皮疹を生じた4例, 第118回日本皮膚科学会総会, 名古屋市, 20190606, 抄録, 1194
- 1933084 上杉沙織、尾山徳孝、小泉 遼、平松活志、中本安成、長谷川 稔: TNF- α 阻害薬投与中に生じたBazin 硬結性紅斑の1例, 第118回日本皮膚科学会総会, 名古屋市, 20190606, 1178
- 1933085 加藤卓浩、飯野志郎、宇都宮夏子、笠松宏至、尾山徳孝、長谷川 稔、矢野泰弘、石田久哉: 多発マダニ咬症によるtick-associated rash illness (TARI) と考えた1例, 第35回日本臨床皮膚科医会総会・臨床学術大会, 松山市, 20190420

e. 一般講演

f. その他

- 1933086 長谷川 稔: 皮膚病変を中心としたループスの治療について—新ガイドラインの解説を含めて—, 第118回日本皮膚科学会総会, ランチョンセミナー26, 名古屋市, 20190606, 抄録, 1091

(3) 国内学会 (地方レベル)

a. 招待・特別講演等

- 1933087 長谷川 稔: エリテマトーデスの皮膚病変～診断と治療～, Lupus Summit 2019 IN TOKAI, 名古屋市, 20191123

b. シンポジスト・パネリスト等

- 1933088 Hasegawa M: Clinical course and biomarkers in Japanese patients with systemic sclerosis, International Symposium of Systemic Sclerosis and Connective Tissue Diseases 2020(北陸地域限定), 金沢市, 20200314

c. 一般講演 (口演)

- 1933089 宇都宮 慧: 本邦における全身性強皮症早期例の臨床経過
: 多施設前向き研究, International Symposium of Systemic Sclerosis and Connective Tissue Diseases 2020
(北陸地域限定), 金沢市, 20200314
- 1933090 笠松 宏至: 全身性強皮症におけるカルバイン阻害剤の有用性の検討, International Symposium of Systemic Sclerosis and Connective Tissue Diseases 2020
(北陸地域限定), 金沢市, 20200314
- 1933091 宇都宮 慧: LG283のプレオマイシン誘発強皮症モデルマウスにおける抗線維化作用の検討, International Symposium of Systemic Sclerosis and Connective Tissue Diseases 2020
(北陸地域限定), 金沢市, 20200314
- 1933092 Utsunomiya A: Anti-fractalkine monoclonal antibody therapy inhibits the progress of skin inflammation, fibrosis, and vascular injury in systemic sclerosis mouse models, International Symposium of Systemic Sclerosis and Connective Tissue Diseases 2020
(北陸地域限定), 金沢市, 20200314
- 1933093 内田沙織、尾山徳孝、長谷川 稔、吉田好雄: 顔面と外陰部に限局する多発性汗管腫の女性例, 日本皮膚科学会北陸地方会第465回例会, 腫瘍関連疾患など, 金沢市, 20200216
- 1933094 加藤卓浩、飯野志郎、関根史織、尾山徳孝、長谷川 稔、川崎勇夫: 後頭部に巨大な腫瘤を形成し、手術加療を行った頭部乳頭状皮膚炎の1例, 日本皮膚科学会北陸地方会第465回例会, 感染症など, 金沢市, 20200216
- 1933095 関根史織、尾山徳孝、長谷川 稔、安富素子、大嶋勇成、石田久哉、早川幸紀: 顔面血管線維腫にシロリムス外用が奏効した結節性硬化症の2例, 日本皮膚科学会北陸地方会第464回例会, 腫瘍関連疾患など, 福井市, 20191208, (4)
- 1933096 吉田康幸、尾山徳孝、飯野志郎、長谷川 稔、清水千尋: プロダルマブが腎部慢性膿皮症にも有効であった尋常性乾癬の1例, 日本皮膚科学会北陸地方会第464回例会, 炎症性疾患など, 福井市, 20191208, 4
- 1933097 宮永美紀、尾山徳孝、長谷川 稔、矢野泰弘: 福井県におけるマダニ刺症後の牛肉アレルギーの実態調査, 第1回日本アレルギー学会北陸地方会, 金沢市, 20191124
- 1933098 尾山 徳孝: 汗にかかわるアレルギー, 第1回日本アレルギー学会北陸地方会, 金沢市, 20191124
- 1933099 知野剛直、尾山徳孝、宇都宮 慧、宇都宮夏子、長谷川 稔、久保亮治: 全エクソーム解析でLMNA遺伝子変異を同定し得た汎発性色素異常を伴う先天性脂肪萎縮症の小児例, 第83回日本皮膚科学会東京・東部支部合同学術大会, 一般演題16(皮膚形成異常、萎縮症、色素異常症), 東京都, 20191116, 抄録集, 204
- 1933100 八代 浩、長谷川 巧、岡村咲由莉、長谷川義典、高嶋吉浩: 腎部慢性膿皮症の外観を呈した肛門癌の1例, 第70回日本皮膚科学会中部支部学術大会, 腫瘍8, 金沢市, 20191005, 抄録集, 160
- 1933101 上杉沙織、尾山徳孝、本多美貴、吉田康幸、笠松宏至、山口由佳、長谷川 稔、北風光平、小泉 遼: プレンツキシマブ・ベドチンが奏効した化学療法抵抗性の原発性皮膚未分化大細胞リンパ腫の1例, 第70回日本皮膚科学会中部支部学術大会, 金沢市, 20191005, 抄録集, 139
- 1933102 宮永美紀、尾山徳孝、長谷川 稔、小泉 遼、相木孝允: 冠動脈流置ステントに含有される塩化白金酸に対する金属アレルギーが原因と考えられたステント再狭窄の1例, 第70回日本皮膚科学会中部支部学術大会, 湿疹・皮膚炎・蕁麻疹, 金沢市, 20191005, 抄録集, 125
- 1933103 笠松宏至、宇都宮 慧、尾山徳孝、長谷川 稔: ヒドロキシクロロキン硫酸塩の内服中に口唇色素沈着を生じた全身性エリテマトーデスの1例, 第71回日本皮膚科学会西部支部学術大会, 高知市, 20190907, 抄録集, 140
- 1933104 長谷川 巧、飯野志郎、北風光平、加藤卓浩、尾山徳孝、長谷川 稔: 黒毛が腫瘤の進展と治療効果を反映した頭部悪性黒色腫の1例, 日本皮膚科学会北陸地方会第463回例会, 福井市, 20190901, 7
- 1933105 吉田康幸、尾山徳孝、長谷川 稔: 限局性結節性皮膚アミロイドーシスを合併した原発性シェーグレン症候群の1例, 日本皮膚科学会北陸地方会第462回例会, 膠原病、自己免疫性疾患, 金沢市, 20190623, 4
- 1933106 関根史織、尾山徳孝、長谷川 稔: 有棘細胞癌とBowen病を合併した播種状表在性汗孔角化症の1例, 日本皮膚科学会北陸地方会第462回例会, 皮膚腫瘍など, 金沢市, 20190623, 4

d. 一般講演 (ポスター)

e. 一般講演

f. その他

(4) その他の研究会・集会

a. 招待・特別講演等

- 1933107 長谷川 稔: 全身性強皮症の病態・最新の話題, Nintedanib Scientific Exchange Meeting, 東京都, 20200202
- 1933108 長谷川 稔: 全身性強皮症: この難病にどう対処すべきか?, SSc-ILD Web Academy, Web講演, 20200117
- 1933109 長谷川 稔: 顔や手の皮疹から見つける膠原病, Psoriasis up to date, 福井市, 20191205
- 1933110 宇都宮 慧: 皮膚筋炎の診断と治療, 福井皮膚疾患セミナー, 20191031
- 1933111 長谷川 稔: 全身性強皮症にみられる肺高血圧症, 福井強皮症セミナー, 福井市, 20190912
- 1933112 長谷川 稔: ループスの皮膚病変～最新の話題～, 第137回山陰・第33回島根合同開催地方会, 米子市, 20190818
- 1933113 長谷川 稔: 皮膚病変を中心としたループスの治療—新ガイドラインの解説を含めて—, Lupus Expert Meeting, 福井市, 20190708

b. シンポジスト・パネリスト等

c. 一般講演 (口演)

- 1933114 加藤卓浩、飯野志郎、北風光平、馬場夏希、尾山徳孝、長谷川 稔、樋口翔平、今村好章: in situ 病変を伴った脂腺癌の1例, 第133回福井県皮膚科医会例会, 福井市, 20190926
- 1933115 宇都宮 慧、知野剛直、宇都宮夏子、Vu Huy Luong、東 清史、斎藤幸一、菅原弘二、鶴田大輔、尾山徳孝、長谷川 稔: 炎症性皮膚疾患におけるdermokine の役割, 第34回角化症研究会, セッション7, 東京都, 20190817
- 1933116 宇都宮 慧、福井玲芽、尾山徳孝、長谷川 稔: 再投薬が可能であったhydroxychloroquine (HCQ) による薬疹の2例, 第68回北陸臨床免疫・症例検討/研究会, 20190720
- 1933117 浅岡浩平、渡邊ゆうき、伊藤和弘、山口智久、井川正道、笠松宏至、根来英樹、細野奈穂子、山内高広、岩崎博道: 典型的皮膚所見を認めなかった好酸球増加を伴わないびまん性筋膜炎, 第68回北陸臨床免疫・症例検討/研究会, 金沢市, 20190720
- 1933118 上杉沙織、尾山徳孝、小泉 遼、長谷川 稔、平松活志、中本安成: 潰瘍性大腸炎の治療中に生じたBazin硬結性紅斑: TNF阻害薬の関与に関して, 第132回福井県皮膚科医会例会, 福井市, 20190627
- 1933119 宇都宮 慧: 皮膚バリア、皮膚免疫におけるdermokineの役割, 第10回皮膚科最新医療研究会, 東京都, 20191111
- 1933120 加藤 卓浩: ニボルマブ投与後の肝動脈科学塞栓療法とラジオ波焼灼療法が奏効した食道悪性黒色腫肝転移の1例, 福井皮膚疾患研究会2019, 福井市, 20190406

d. 一般講演 (ポスター)

e. 一般講演

f. その他

(C) 特許等

区分	内容 (発明の名称)	発明者又は考案者
----	------------	----------

(D) その他業績

- 1933121 長谷川 稔、石井智徳: 「皮膚エリテマトーデス—SLE診療ガイドラインを踏まえて—」Lupus対談シリーズ3, 202003
- 1933122 日本皮膚科学会中部支部メンター&メンティーの会ワーキンググループ
鷲尾 健、蓮沼直子、峠岡理沙、中島沙恵子、宇都宮夏子、西部明子、丸山彩乃、多田弥生、青山裕美: 「第70回日本皮膚科学会中部支部学術大会キャリア支援委員会主催 キャリアデザイン講座未来設計図～Design your dream, 輝く未来へ～」日本皮膚科学会雑誌, 20200120
- 1933123 長谷川 稔: 「膠原病診断”爪の周りを見る”」内科系総合雑誌 Modern Physician, 20200301
- 1933124 長谷川 稔: 「膠原病の手の皮膚」日本臨床皮膚科医会雑誌, 20191105
- 1933125 馬場夏希、飯野志郎、長谷川 巧、小泉 遼、上杉沙織、笠松宏至、尾山徳孝、長谷川 稔、伊藤和広: 「トシリズマブ投与中の関節リウマチ患者の下肢に生じたSerratia marcescens による多発皮下膿瘍の1例」日本皮膚外科学会誌, 201909
- 1933126 Hasegawa M.: Clinical Connections. Inhibition of the Progression of Skin Inflammation, Fibrosis, and Vascular Injury by Blockade of the CX3CL1/CX3 CR1 Pathway in Experimental Mouse Models of Systemic Sclerosis., Arthritis Rheumatol, 2019

4. グラント取得

(A) 科 研 費 ・ 研 究 助 成 金 等

区分	プロジェクト名	研究課題名	代表者名	分担者名	期間(年度)	金額(配分額)
国立研究開発法人日本医療研究開発機構	難治性疾患実用化研究事業	全身性強皮症に対する新規低分子化合物の有効性に関する研究	長谷川 稔		2019	130000
区分	研究種目	課題名	代表者名	分担者名	期間(年度)	金額(配分額)
文部科学省科学研究費補助金	若手研究	炎症性皮膚疾患のバリア機能異常を反映する新規バイオマーカーの探求と臨床応用の検討	宇都宮 慧		2019	1170000
文部科学省科学研究費補助金	若手研究(B)	硬化性萎縮性苔癬の細胞外基質を標的とする免疫異常の病態解明と分子標的治療への応用	宇都宮 夏子		2019	1040000
文部科学省科学研究費補助金	若手研究(B)	抗線維化作用を有する新規化合物を用いた強皮症の治療開発	小泉 遼		2019	1300000
文部科学省科学研究費補助金	基盤研究(C)	上皮間葉移行阻害薬は全身性強皮症の新規治療薬となりうるか	長谷川 稔		2019	1690000
文部科学省科学研究費補助金	基盤研究(C)	マウスを用いたアトピー性皮膚炎や魚鱗癬の胎児治療の確立	知野 剛直		2019	1170000
文部科学省科学研究費補助金	基盤研究(C)	乾癬の病態におけるテルモカインβ/γの役割の解明	徳力 篤		2019	1170000
厚生労働省科学研究費補助金	難治性疾患等政策研究事業(難治性疾患政策研究事業)	強皮症・皮膚線維化疾患の診断基準・重症度分類・診療ガイドライン作成事業	長谷川 稔		2019	150000
学内競争的資金	令和元年度「ライフサイクル医学」推進学部長裁量経費	悪性黒色腫におけるテルモカインの抗腫瘍免疫作用に関する研究	宇都宮 慧		2019	500000

(B) 奨学寄附金

受入件数	25
受入金額	13100000

5. その他の研究関連活動

(A) 学 会 関 連 等

区分	主催・共催の別	学会名	開催日	開催地
国内学会(地方レベル)	主催者	日本皮膚科学会北陸地方会第462回例会	20190623	金沢市
国内学会(地方レベル)	主催者	日本皮膚科学会北陸地方会第463回例会	20190901	福井市
国内学会(地方レベル)	主催者	日本皮膚科学会北陸地方会第464回例会	20191208	福井市

(B) 学 会 の 委 任

学会の名称	役職	氏名
日本皮膚悪性腫瘍学会	評議員	長谷川 稔
日本研究皮膚科学会	評議員	長谷川 稔
日本皮膚科学会	代議員	長谷川 稔
日本皮膚免疫アレルギー学会	理事	長谷川 稔
日本乾癬学会	評議員	長谷川 稔
日本白斑学会	評議員	長谷川 稔
日本臨床免疫学会	評議員	長谷川 稔

(C) 座 長

国内学会	学会名	氏名
一般講演(口演)	International Symposium of Systemic Sclerosis and Connective Tissue Diseases 2020(北陸地域限定)	Hasegawa M.
招待・特別講演等	北陸皮膚アレルギー研究会2020	長谷川 稔
招待・特別講演等	Psoriasis & PsA Forum in FUKUI	長谷川 稔
一般講演(口演)	日本皮膚科学会北陸地方会第465回例会	尾山 徳孝
招待・特別講演等	第68回北陸臨床免疫・症例検討/研究会	長谷川 稔
招待・特別講演等	日本皮膚科学会北陸地方会第464回例会	長谷川 稔
一般講演(口演)	日本皮膚科学会北陸地方会第464回例会	飯野 志郎
招待・特別講演等	第49回日本皮膚科免疫アレルギー学会総会学術大会	長谷川 稔、石黒直子
招待・特別講演等	The 44th Annual Meeting of the Japanese Society for Investigative Dermatology	Kadono T, Fujita H, Hasegawa M.
招待・特別講演等	Psoriasis up to date	長谷川 稔
招待・特別講演等	福井県地域医療連携講演会	長谷川 稔
招待・特別講演等	福井県皮膚疾患フォーラム	長谷川 稔
招待・特別講演等	福井県皮膚疾患フォーラム	尾山徳孝

業績一覧

招待・特別講演等	Psoriasis Special Lecture -Dr. John Koo 来日記念- in Fukui	長谷川 稔
一般講演(口演)	第10回皮膚科最新医療研究会	長谷川 稔、藤本 学
招待・特別講演等	福井皮膚疾患セミナー	長谷川 稔
招待・特別講演等	福井皮膚血管炎研究会	長谷川 稔
一般講演(口演)	第70回日本皮膚科学会中部支部学術大会	尾山 徳孝
招待・特別講演等	第70回日本皮膚科学会中部支部学術大会	長谷川 稔、森脇真一
招待・特別講演等	第70回日本皮膚科学会中部支部学術大会	長谷川 稔
招待・特別講演等	福井県皮膚科学術講演会	長谷川 稔
招待・特別講演等	福井強皮症セミナー	長谷川 稔
招待・特別講演等	福井皮膚疾患セミナー	長谷川 稔
一般講演(口演)	第34回乾癬学会学術大会	長谷川 稔、遠藤幸紀
招待・特別講演等	Lupus Web Conference	長谷川 稔
招待・特別講演等	福井県皮膚科医会講演会	長谷川 稔
招待・特別講演等	第41回光医学・光生物学会	長谷川 稔
招待・特別講演等	第10回福井の乾癬を考える会	長谷川 稔
招待・特別講演等	第23回北陸皮膚科セミナー	長谷川 稔
招待・特別講演等	日本皮膚科学会北陸地方会第462回例会	長谷川 稔
招待・特別講演等	第118回日本皮膚科学会総会	長谷川 稔
招待・特別講演等	北陸皮膚アレルギー研究会2019	長谷川 稔
招待・特別講演等	第4回福井県女性医療研究会	長谷川 稔
招待・特別講演等	福井皮膚疾患研究会2019	長谷川 稔
招待・特別講演等	Lupus Expert Meeting	長谷川 稔

(D) 学術雑誌等の編集

学術雑誌等の名称	委員長(主査)・委員	氏名
Journal of Dermatology Research & Therapy	委員	長谷川 稔
J Dermatol.	委員	長谷川 稔
J Dermatol Sci.	委員	長谷川 稔
J Eur Acad Dermatol Venereol.		尾山 徳孝
Clin Exp Dermatol.		尾山 徳孝
Dermatol Clin Res.		尾山 徳孝
Ann Res Rev Biol.		尾山 徳孝
Br J Dermatol.		尾山 徳孝
Open Dermatol J.		尾山 徳孝
Arthritis Rheumatol.		長谷川 稔
J Dermatol Sci.		長谷川 稔 尾山 徳孝
Mod Rheumatol.		長谷川 稔
PLOS ONE.		長谷川 稔
Eur J Dermatol.		長谷川 稔
J Scleroderma Related Dis.		長谷川 稔
Case Rep Dermatol.		長谷川 稔
Arthritis Res Therapy		長谷川 稔
Case Rep Rheumatol.		長谷川 稔
J Dermatol.		長谷川 稔 尾山 徳孝 宇都宮 慧

(E) その他

- 1933127 長谷川 稔, 福井大学 学長奨励賞(研究), 20200331
- 1933128 宇都宮 慧: 学長表彰 大学院博士課程業績顕著者, 202003
- 1933129 宇都宮 慧: 第9回2019年度「鳥居・帝國乾癬研究奨励賞/研究奨励部門」(日本乾癬学会), 20190830
- 1933130 長谷川 稔: JD Award: Most Cited Paper in the 2018 Impact Factor Period (日本皮膚科学会), 20190606
- 1933131 宇都宮 慧: ラ ロッシュ ポゼ基金 皮膚科学分野研究プロジェクト(臨床研究プロジェクト部門), 2019
- 1933132 Luong VH, 宇都宮 慧, 知野 剛直, Le H Doanh, T Matsushita, T Obara, Y Kuboi, N Ishii, A Machinaga, H Ogasawara, W Ikeda, T Kawano, T Imai, 尾山 徳孝, 長谷川 稔: 2019年度後期優秀論文賞(医学研究推進室). Inhibition of the Progression of Skin Inflammation, Fibrosis, and Vascular Injury by Blockade of the CX3CL1/CX3CR1 Pathway in Experimental Mouse Models of Systemic Sclerosis., 2019
- 1933133 宇都宮 慧, 知野 剛直, 宇都宮 夏子, 徳力 篤, 永沼 達郎, 有田 誠, 東 清史, 齋藤 幸一, 鈴木 紀之, 大原 彩子, 菅井 学, 菅原 弘二, 鶴田 大輔, 尾山 徳孝, 長谷川 稔: 2019年度後期優秀論文賞(医学研究推進室), Homeostatic Function of Dermokine in the Skin Barrier and Inflammation., 2019
- 1933134 宇都宮 慧: セラムド保持に不可欠 表皮内の物質デルモカインの肌の保湿、抗炎症作用を発見(NHK福井放送局), 20191026
- 1933135 宇都宮 慧: セラムド保持に不可欠 表皮内の物質デルモカインの肌の保湿、抗炎症作用を発見(福井新聞、日刊県民福井、中日新聞、朝日新聞、読売新聞), 20191026
- 1933136 長谷川 稔: 指定難病”全身性強皮症”に光 一新たな治療標的分子「フラクタルカイン」の発見-(NHK福井放送局), 20190920
- 1933137 長谷川 稔: 指定難病”全身性強皮症”に光 一新たな治療標的分子「フラクタルカイン」の発見-(日刊県民福井、福井新聞、中日新聞、朝日新聞), 20190921
- 1933138 笠松 宏至: ふくいのドクター相談室 子のアトピー性皮膚炎完治する?(福井新聞), 20200206
- 1933139 加藤 卓浩: マダニ刺咬症(福井街角放送「Radioあいらんど」福大病院まちかドラジオのコーナー), 20190904